

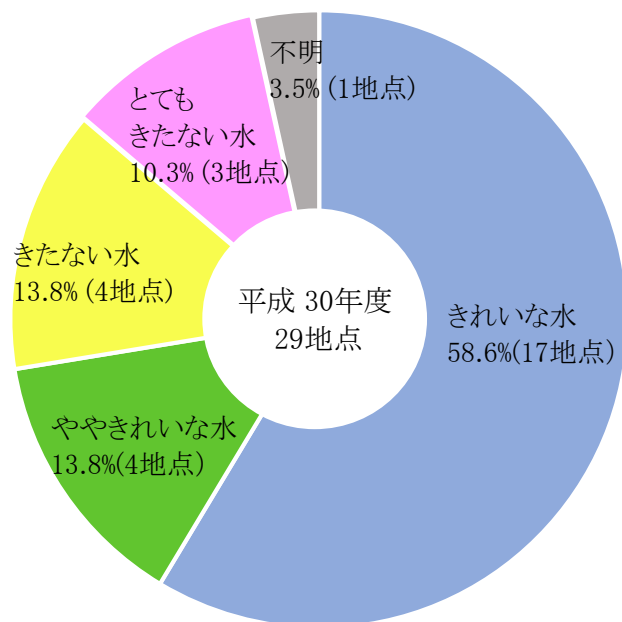
2. 調査結果

(1) 水質階級別調査地点数の割合

水質階級別調査地点数は、図 1 に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は 17 地点(58.6%)、“ややきれいな水”と判定された地点は 4 地点(13.8%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は 4 地点(13.8%)、“とてもきたない水”と判定されたのは 3 地点(10.3%)であった。

1 地点は豪雨後の猛暑で水量が少なく、階級指標となる生物は発見されず水質階級は不明であった。



<図 1> 水質階級別調査地点数の割合

(2) 前年度に対する水質階級の比較

平成 30 年度の調査地点 29 地点のうち 21 地点が平成 29 年度と同じ地点での調査であった。これらの 21 地点の水質階級を比較すると、同じであったところが 14 地点、良くなったところが 5 地点、悪くなったところが 1 地点、比較不明が 1 地点であった。(表 2)

<表 2> 前年度に対する水質階級の比較 (前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度より良くなった	前年度と変わらない	前年度より悪くなった	前年度と比較不明	全地点数
調査地点数	5	14	1	1	21
割合 (%)	23.8	66.7	4.8	4.8	100

(注) 割合については四捨五入のため、合計が 100%にならないことがある。

(3) 水生生物調査結果一覧

水生生物調査結果一覧を表 3 に示す。

(4) 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度及び最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表 4 のとおりである。

＜表 4＞ 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物		指標生物(○+●)		出現割合(%)	優占種(●)	
			頻度(回)	割合(%)		頻度(回)	割合(%)
I きれいな水	1	アミカ類	0	0.0	40.4	0	0.0
	2	ナミウズムシ	13	6.9		5	7.7
	3	カワゲラ類	8	4.3		3	4.6
	4	サワガニ	12	6.4		4	6.2
	5	ナガレトビケラ類	9	4.8		0	0.0
	6	ヒラタカゲロウ類	13	6.9		9	13.8
	7	ブユ類	1	0.5		0	0.0
	8	ヘビトンボ	4	2.1		0	0.0
	9	ヤマトビケラ類	12	6.4		5	7.7
	10	ヨコエビ類	4	2.1		1	1.5
II ややきれいな水	11	イシマキガイ ※	5	2.7	28.7	2	3.1
	12	オオシマトビケラ	6	3.2		2	3.1
	13	カワニナ類	5	2.7		1	1.5
	14	ゲンジボタル	2	1.1		0	0.0
	15	コオニヤンマ	10	5.3		2	3.1
	16	コガタシマトビケラ類	9	4.8		3	4.6
	17	ヒラタドロムシ類	10	5.3		5	7.7
	18	ヤマトシジミ ※	7	3.7		3	4.6
III きたない水	19	イソコツブムシ類 ※	3	1.6	20.2	0	0.0
	20	タニシ類	8	4.3		4	6.2
	21	ニホンドロソコエビ ※	4	2.1		1	1.5
	22	シマイシビル	14	7.4		6	9.2
	23	ミズカマキリ	3	1.6		1	1.5
	24	ミズムシ	6	3.2		2	3.1
IV きとたない水	25	アメリカザリガニ	1	0.5	10.6	0	0.0
	26	エラミズ	6	3.2		2	3.1
	27	サカマキガイ	5	2.7		2	3.1
	28	ユスリカ類	4	2.1		2	3.1
	29	チョウバエ類	4	2.1		0	0.0
合 計			188	100	100	65	100

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域きすいりいきの生物

(注) 割合については四捨五入のため、合計が 100%にならないことがある。